

議会だより



7月定例議会

7月10日～12日

助役選任の同意……………2P

5期目の町政を質す……………4P

17年度病院決算認定……………10P

議長会報告……………11P

シリーズ 私もひと言……………12P

発行：新潟県津南町議会

責任者：議長 高橋 満男

町のホームページでも議会だよりをご覧になれます。

条例改正・廃止

① 津南町医学生等修学資金貸与条例の一部を改正
修学資金の返還免除期間が延長されました

大学卒業後2年以内に医師となり、規定の臨床研修を行った後、医師職員としての勤務意志が確認された場合は、臨床実務経験期間（最長6年）の返還が延長されました。

返還免除要項が加えられました

医師職員となり、町立病院に引き続き在職した場合において、在職期間が修学資金の貸与を受けた期間に相当する期間に達したとき、免除となります。

② 肉用牛導入事業資金の設置・管理及び処分に関する条例の廃止

この事業の利用がなくなり、廃止されました。

7月定例議会

平成18年第2回定例議会が7月10日から12日までの会期で開催されました。初日は町長所信表明から始まり12名が一般質問をしました。傍聴者は延べ32名でありました。議案は平成18年度補正予算、条例の一部改正、請願・陳情など20議案を審議し可決しました。

町長所信表明

確かな自律への道を5期目に



5期目を当選させていただき、これまでになく責任の重大さを痛感いたしてるところでございます。初心に返り一層おのれに厳しく、町民の負託に応えるべく、誠心誠意取り組んでまいります。なにとぞ一層のご指導、ご鞭撻を心からお願いを申し上げます。

上げます。
さて、私の政治姿勢であります。これまでの基本姿勢となんら変わるものではありません。「弱者優先」「僻地優先」を政治理念とし、町民の「心の健康」「体の健康」「なわち心身の健康」「産業経済の健康」「生活環境の健康」を柱と致しまして、これからも本町の自律に向けての町づくりにより全身全霊を傾けてまいります。

当町は多くの町民の意を受けまして、平成15年1月に議会とともに、合併をせず自律の道を選択いたしましたところであり、この多くの町民の思いは、たとえ小さな町でも行政サービス水準が維持でき、血の通う町であってほしいというものであったと受け止めております。当町はこの町民の思いを真摯にとらえ、これまでの行政サービス水準の維持のため、1,147項目にわたる全ての事務事業の点検と、徹底した見直し、また適正な定員管理の実施をいたして参りました。そして何よりも重要なことは、55名の一般町民の方々が職員とともに議論をし、新生津南町の自律に向けた町づくり基本構想の中

で、自律推進計画を昨年3月に策定を致したことであります。本計画では20年先までを展望し、予想されることの限りを尽くしまして、国県における厳しい財政事情等の当町に与える影響を極めて厳しく推計し、シミュレーションをいたしました。この自律推進計画はまさに当町が未来に向かって、着実な歩みを続けていくための道しるべであります。この自律推進計画たる道しるべによりまして、自律への道筋を確かなものとする。とが、4年間私に課せられた責務であると考えており、実施にあたりましては、何よりも行政と町民の協働、ともに働くことが極めて重要な要素となると考えております。

町民の皆様から一層のご支援ご協力をせつにお願いを申し上げます。所信の表明といたします。

助役の選任



滝沢秀雄氏の
再任に同意

平成18年7月31日で任期満了となる助役に滝沢秀雄氏（65歳）の再任に同意することになりました。（任期4年間）

常任委員会

の任命

総務文教福祉常任委員会
大島 知 美
産業建設常任委員会
高橋 孝 男

意見書

4つの意見書を採択し、国県に提出しました。

○新潟県議会議員定数配置に関する意見書
○出資法の上限金利の引き下げ等「出資の受け入れ、預り金及び金利等の取締りに関する法律」及び「貸金業の規制等に関する法律」の改正を求める意見書
○郵政事業の現状維持を求める意見書
○30人以下学級の実現、義務教育費国庫負担制度の堅持をはじめとする教育予算の充実を求める意見書

補正予算

補正総額

1億8,706万円

主な内容

雪害修繕料

1,390万円

各小・中学校、山伏山関連施設、東秋山林道など。

埋設農薬調査処理委託料

1,953万円

主要地方道卯ノ木々豊船橋間

老人保健特別会計

1,604万円

繰り越し金ほか

簡易水道特別会計

2,170万円

津南原水道本管布設替工事の増工、辰ノ口水道減圧弁設置工事など。

下水道事業特別会計

8,950万円

津南原、源内山の管渠整備工事の増工



雪害を受けた津南小屋上フェンス

女性参画の現状と課題

町長 女性の社会進出は重要、多面に登用を進める

▶▶▶ 樋口松雄 議員



視察先で一言ももらさずメモをとる

女性の能力発揮
の場が必要

格差社会と
義務教育

問 内閣府は都道府県庁や民間企業の管理職などに、どれだけ女性が進出したかを表わす「女性チャレンジ指数」を発表した。町でも役職等について女性の比率を高め、より能力を発揮してもらうためには何が課題なのか。

問 経済格差で学力に差があつてはならないと思うが考えは。 **教育長** 現在の教育課程では経済的困難でも、要保護、要保護制度により格差は解消されている。また、塾教育は補完学習であり、学校での教えが大事である。

問 児童生徒の安全対策は。 **教育長** 田舎であつても安全保障はないが、今さまざまな団体と連携を取り合い、地域ぐるみで学校安全体制整備事業を進めている。

農家への支援策が
活性化を決める

町長 地域ごとの特例は認められていない

集落営農は町独自の形態を認められないか

▼▼▼ 大平謙一 議員



残したい先祖伝来の棚田

問 国の農政は小農切り捨てをしようとしている。津南町では2ha以下が53.2%、自給的農家が23.5%で兼業が圧倒的多数である。国の政策から外れる農家の支援策が町の活性化を決定づけると思う。町は今後どのように農家を指導するのか。

町長 認定農業者、品目横断政策からもれる農家共に別扱いはしない。国の施策の是非はともかくとして、自らの所得確保のため兼業所得もふくめて農業経営内容の見直しは必要な事と考えている。町としても独自の価格安定対策、品質向上や収量増、販路拡大対策高付加価値対策等に取り組んでいく。

集落営農を否定するもので

はないが簡単には取り組めない。それより集落で話し合いを重ねる中で集落内で1〜2人の認定農業者を育て共に協力して農地管理に取組む方がベターの方法ではないかと思っている。国への働きかけは農業委員会、全国JAもこの事

12名が登壇し質す

5期目の公約実現をどう構築していく

町長 融和と協調の町政運営を図る

▼▼▼ 草津 進 議員

人口増加の目標
と具体策は

問 地域資源を活かした産業振興での人口増加を4年間でどう進めていくのか。

町長 定着人口を推進するうえで、住環境の整備が大事である。健康で安心して暮らせる子供をいきいき育てられる環境の町づくりを進めている。生活基盤を支える産業振興をどう図っていくかが課題だ。雇用の場確保、創出は定着人口増大に重要である。

町づくり町民提案
事業の本身は

問 町民が安心して今までどおりの普通の生活が続けられる町づくりの一つとして「町づくり町民提案事業」の創設（住民参加と協働の町づくり）



ボランティアも協力して、大地の芸術祭津南案内所

の予算と具体的な中身は **町長** 新生津南町の創設に向け、自ら考え行動する町民主体の町づくりを推進していく。そのため町民税予算の2%程度を充てる。町民が直接提案できる制度の創設である。提案内容は独自性があり、自律

に向けた町づくりに資するような提案とする。ただし、集落や地域に特定されたものは除く。選定については町民で構成された委員会をつくり検討して行く。委員会は8名程度を予定している。

具体的な少子化対策を

町長 子育て環境づくりに一層の整備充実を行う

▶▶▶ 村山久一 議員

人口増加の目標に
どう対応するか

問 いま直面している重要課題である少子化対策は成果が上がってない。3月議会において町長は自律プランで目指す13,000人への人口増を目標に努力すると明言したが、具体的な対策は。

町長 本町においては、子育て環境づくりに鑑み、現在出産育児金40万円、保育料の軽減、入院費の補助、就学前の医療費の無料化等に対して一層の子育て支援の充実を行う。

農政の転換と
町農業への影響は

問 町の重要産業である農業の今後について。国の農業政策転換による町農業への影響は少なくないが、今後どのように取り組んでいくか。所得安定対策で担い手の育成は、担い手の認定も受けられず、集落営農組織もできない地域の農家への対応は。

町長 あらたな食料農業農村基本計画がスタートするが、具体的には米の自給調整、その推進体制、食料輸入と農産物価格、自給率、国土環境の維持等である。WTO交渉の見通しが立たず、その動向を注視したい。担い手については、本町には意欲と能力のある後継者も育ち就農している。



意欲ある担い手

教育基本法改定をどう考える

教育委員長 「勝ち組」「負け組」をつくるものではない

▶▶▶ 大 口 武 議員



おおらかに育て1年生

問 教育基本法の改定案は憲法第9条の改定を前提に、子ども達の教育に「もつと競争原理を導入する」として、全国一斉学力テストや習熟度別指導など、子ども達を「勝ち組」「負け組」に振り分ける教育を公然と行わせるものではないか。

また、現行法10条は戦争教育の痛恨の反省によって教育内容に国家権力の介入を禁じているが、改定案はときの政府が無制限に介入できるものである。これは子ども達の「人格の完成」めざす教育か

改定案は無制限に権力の介入を許すもの

「国家策に従う人間」をつくる教育へと教育の目的を根本から覆すものではないか。

教育委員長 全国学力調査は教育の成果と課題を検証し教育施策、学習改善等重要で意義があるもの。「勝ち組」「負け組」をつくるものではなく、そのように振り分けてはならないものだ。

国家権力の介入については確たる持論ではないが、憲法との関わりもあるし、憲法の戦争放棄は絶対に変えることは無いだろうと思っており、従って教育の内容そのものに国が自分たちの権力で介入してすることは考えられないことと、思っている。

地域農業の推進策は

問 環境を生かした農業施策は。

町長 豪雪というハンデもあるが、逆に豊富な資源、環境を生かした取り組みが重要である。環境に配慮した施策にウエイトを移し、徐々に充実させていくことが重要である。

問 中山間地域の農地保全、営農の推進策は。

町長 津南町では極めて重要な課題である。都市の方々の力を借りた耕作維持や中山間地域直接支払い、農地水環境対策、高齢者による農業所得確保対策、都市との交流等に各集落から取り組んでいただき、町も支援していきたい。

津南の子供たちの育成は

津南農業の将来像を

町長 マイナス要素だけではないプラス要素もいっぱいある

▶▶▶ 大 島 知 美 議員



反り口原から中津の穀倉地帯

問 小中学校における食育教育の取り組みと推進状況は。

教育長 食育教育は子供たちの身体、心の成長に必要である。「ごろんこ学習」などを取り組んでいるが、さらに充実を図っていきたい。

問 青少年育成会議の取り組み状況は。

教育長 子供たちは今、友達とのコミュニケーションづくりに苦慮している。このコミュニケーションづくりを考えることが学力向上にもつながる。

町独自の農業政策を

町長 集荷販売対策に支援したい

▶▶▶ 根 津 勝 幸 議員

高齢化社会に対応した農業基盤を

問 平成17年の農業センサスによると、当町の農家戸数1,718戸、内専業農家223戸、兼業農家1,092戸、自給的農家403戸である。農業立町としての確立は先祖代々からの農地を死守してきたこと。苗場山麓開発、ほ場基盤整備、新規就農者の受け入れと、より農業立町として発展してきた。しかし、農家の高齢化は進んでいる。高齢農家が離農しないよう、支援手立ては無いものか。

町長 高齢者の離農も想定され、また、後継者、担い手の農地集積、規模拡大も進むと考えられる。高齢者農家も所得に差、農地管理などにおいて大きく差が生じるものと考え



高齢者も安心してできる農業施策を

えられる。高齢者が箱詰めして集出荷場まで運ぶということではなく、庭先で集荷し、箱詰め、パッケージも引き受けられるシステムが必要である。集荷販売対策を講じたい。

新規就農者に休耕田の貸し付けを

問 町内休耕田を特化し、新規就農者に自家米用として貸し付けてはどうか。

地域振興課長 自家米用田を希望する人には、いろいろな手立てで農地確保をしたい。

福祉用具の利用制限しないで

町長 貸し出ししている人から取り上げない

▶▶▶ 藤ノ木 浩 子 議員

ベットや車イスは日常生活の支え

「すみれ工房」に緊急の支援策を

問 介護保険の改悪で、4月から要支援と介護度1の軽度者に対し、国は福祉用具の利用制限を決めた。福祉用具は要介護者にとって日常生活を送るための支えであり、軽度者のサービス利用こそ、重度化を防ぐ効果がある。必要な用具を貸し出し、今利用している人から取り上げないで頂きたい。

町長 貸し出ししている人からあえて取り上げるようなことはさせない。今まで通りの使用であり、また、事情を考慮しながら対応すべきは対応する。

問 障害者自立支援法が施行されたが、新体系への移行を検討している精神障害者福祉施設に対し、国は国庫補助を25%カットすると通知している。これでは運営それ自体が困難である。障害者の自立を妨げないためにも、緊急の町の支援が必要だ。

町長 旧事業を続けたとしても補助額は現行水準を維持することを、国に働きかけていくことが大事である。また、つなん福祉会とすみれ工房の自助努力と、障害者の自立を妨げないよう支援をしていく。



人にやさしい福祉用具

町民の立場で町政施行を

町長 町民のためいっそうの努力をする

吉野 徹 議員



豪雪時頼りになる除雪機械

問 町立中学生と県立中学生の学力の実態は。
教育長 4月に実施された標

中等教育校
関連のなかで

問 冬期における弱者世帯の支援策及び関係集落の賃貸除雪機械補助制度の確立は。
町長 豪雪時での弱者世帯、高齢者世帯の除雪支援、また除雪機械不足等の今冬の豪雪時の反省や対応を踏まえて県への支援要請を更に強めていく。

問 冬期における弱者世帯の支援策及び関係集落の賃貸除雪機械補助制度の確立は。
町長 豪雪時での弱者世帯、高齢者世帯の除雪支援、また除雪機械不足等の今冬の豪雪時の反省や対応を踏まえて県への支援要請を更に強めていく。

冬期の支援策の
確立を

準学力テストの結果からすると県立の中学校が6く7ポイント上回っている。
しかし、いずれの町立中学校も平均値より高い成績である。平均値の高低に踊らされることなく内容を分析し、地道な努力の継続を望んでいる。
問 高校生の町外通学手段の改善策は。
教育長 保護者からの強い要望もあり、町独自のスクールバスによる交通手段、路線バスのダイヤ改正等の検討を進めたが、バスの車両不足、人員不足等で即刻の改良は図れない。
町の制度資金を利用したなかで保護者の理解と協力を願う。

問 伝統を誇ってきた五百万石の最適地である当町は値の高いコシヒカリへの転作がすみ、17年度は種子用として3・51ha作付けされたのみであり残念だ。当町の二つの酒蔵とも地元酒米の増産を強く望んでおり、せめて必要量を確保するため7ha程度に作付けを拡大してゆく考えはないか。
農業委員会 酒米が減ってきた原因はコシヒカリとの価格差と面倒くささ。価格差の補てんができれば酒米の生産は拡大すると思う。県内では契約栽培の酒米が増えている。今年は酒米用として私も0.3ha栽培し、他にも2.7ha作付けしている。
問 今期(53期)の経営状況は。

問 今期(53期)の経営状況は。

収入役 今期売上高は5,500万円程度と予測している。前期に比べると1,42倍の伸び。5月から新たにCGCグループと取引が始まった。東南アジア向けの酒の打診もきている。56期にはふるさと財団、北越銀行合わせて1,200万円の返済も終了する

し、現在2,500万円の償却があるが、1,200万円に半減する。そうなければかなり余裕がでくるのではないかと思う。またワンカップは人気があるという話もあり、役員会では中古機械が100万円位なので、余裕がでくれば考えてゆきたい。



五百万石での仕込み作業

収入役

今期売上高予測5,500万円(142%増)

藤ノ木 富有 議員

津南醸造K.K.の経営は改善されたか

地元産酒米
五百万石増産を

町長の政治姿勢と諸課題の対応は

町長 初心に立ち返り諸課題に取り組む

高橋 孝男 議員

町長の政治姿勢と
投票結果について

問 町内外に、特定といわれる業者があり、北海道旅行、海外慰安旅行。また、職員採用にも不審の目を町民がもっている。今回の選挙でも特定の団体等で行き過ぎた行為があり、町民の権利を歪めている。今回の投票結果は事実上不信任である。今後4年間に町活性化の具体策は。また、若者の定住促進策はどうか。
特定業者との関係は断ち切るべきであり、利益誘導はとんでもないことである。
町長 今回の投票結果を重く受け止めている。しかし、町民から信任されたので5期目を全うする。また、町民とともに策定した自律計画により、確かな歩みとする。課題は山

積しているが、町民が安心して普通の暮らしができる環境づくりが大切である。特定業者というのが商工会政治連盟、建設業協会等それぞれから推薦をいただいている。私は町民党の立場である。町民にはそれぞれ党があるが、政党に

よる町民の差別はない。これが私の政治姿勢である。
この度の選挙を通じても批判、噂、デマ等が飛び状況であった。活性化は、健全財政を維持しながら何をやるか決めなければならない。議員の協力を得たい。



住民とのコミュニケーション

健全財政を維持する具体策は

町長 自律の町づくり報告書による

富沢 春江 議員

住民の活力を生む
財政運営策は

問 自律プラン、健全財政は行政サイドだけの健全財政であって、町民サイドでの健全財政とはとらえていない考えもあると思うが、住民の活力を生み出す財政運営の具体策は。
町長 自律町づくり報告書では、国県の財政が厳しくなることを想定したシビアなコミュニケーションである。事務事業を見直し、職員人件費を抑制する計画であり、毎年見直しをしていく。
問 町が所有する施設の民間委託は町全体の経済効果を高めているのか。

近年町民は、町に要望しても金がないと言われるという声を多く聞くが。
自律プランは町民の多くが見ていないし、自ら活用しようとは考えていないと思う。真に住民との協働の町づくりは町民の理解と協力、そのための対話が重要と考えるが。
町長 政治には手法がある。きめ細かなことや、大きな事業を推進するかである。いま、国の閉塞感が地方に及んでいる。それをどう打ち破るかが課題である。職員には金がないと言ふなど言っている。町民の求める小さな予算も大事である。また、要望されればいつでも地域の会議に出席し要望を聞いている。



読んで活用したい自律プラン



県町村議会議長会として挨拶する高橋議長

高橋議長は、新潟県町村議会議長会の会長として、また全国町村議会議長会の理事として、津南町の実態を全国に発信し活躍されています。その活動報告をお知らせします。

県・全国議長会の活動のなかで、特に津南町に係わりの深い事柄について報告したいと思います。

昨年10月、全国町村議会代表者と各政党の代表国会議員、国土交通省の幹部職員との意見交換会がありました。国土交通省から示された資料のなかに、豪雪関係について我が津南町の雪の記録が記載

議長 高橋満男

全国・県議長会報告

されていたのには緊張しました。

私は雪国の住宅への国の支援と、冬期保安要員制度の確立を要請するとともに、豪雪による災害救助法の適用が平均の積雪量との比較によるため、常に積雪量の多い津南町などは、逆に救助法が適用され、国県の支援を受けることが、雪の少ない平場の市町村より難しくなっていると指摘し、改善を要請しました。

また、全国どこに住んでいても最低限の行政サービスが受けられるよう、国の税収の一定割合が地方の財源となっている、地方交付税制度というものがあります。津南町ではこの収入が46%も占めている大事な財源であります。政府はこの配分を減らして、国の財政不足に充てようとしています。私はこれを阻止し、むしろ広大な国土を持ち、都市に水や電力など資源を提供している津南町などの町村に多く配分すべきだと考えており

平成17年町立津南病院事業会計の決算は、全員賛成で認定しました。

事業収支の状況

総収益は、前年に比べ3・68%増の19億6,655万9千円、入院収益では7億5,459万7千円、外来収益は9億2,521万5千円、一般会計からの補助金として1億8,404万4千円（内運営費1億3,000万円）の収入でした。入院、外来とも患者数は減少していますが、診療単価増で前年比6,819万8千円増となりました。総費用は、前年比1・92%増の19億7,192万9千円、給与費10億7,557万3千円、委託料1億952万9千円、医療機器などの賃借料は5,476万5千円でした。当年度純損失は537万円におさえることができました。

医療機器・施設改修

要望の高かった1階外来トイレ改修工事を実施。電動ベッ トや車イス、輸液ポンプやシリンジポンプ、訪問看護自動車など購入しました。

	平成17年度	平成16年度	平成15年度
総収益	19億6655万9千円	18億9667万3千円	18億9808万1千円
総費用	19億7192万9千円	19億4053万4千円	19億0989万1千円
差 引	△ 537万円	△ 4386万1千円	△ 481万円
総収支比率	99.72%	97.73%	99.75%

患者の動向

入院延患者数は、3万3,388人で前年比マイナス891人の減少となりました。病床利用率は80・2%、1日平均入院数は91・4人1人当たりの在院日数18・7日でした。手術は眼科中心に213件ありました。

外来の延患者数は、7万9,701人で前年比マイナス4,727人の減少でした。要因は薬の長期投与が可能となり、再来患者が減少したためと思われる。その他人間ドックに878人、18事業所の健康診断に628人が受診しています。

今後の課題

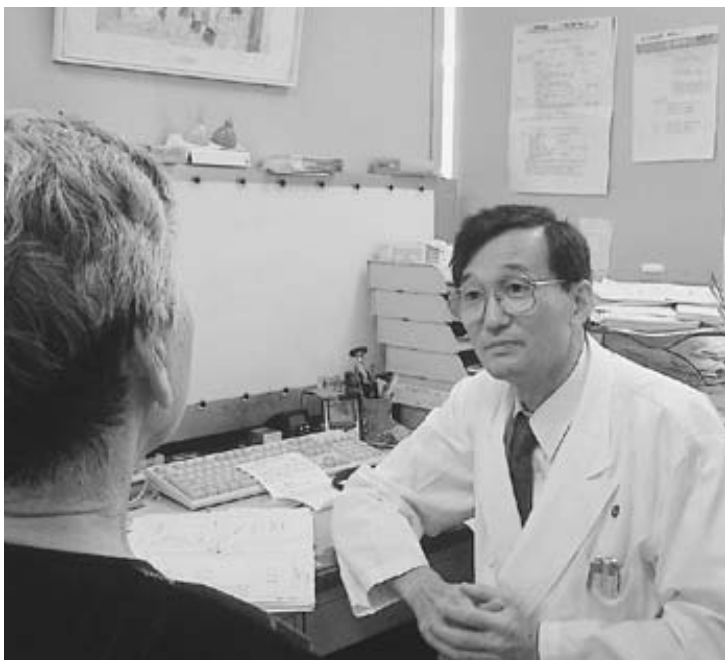
町民の健康維持、増進を目標に、予防医学の取り組みの継続、生活習慣病対策の拡充、往診、訪問看護などの実施とともに、経営の健全化に一層努力が必要であります。

医療改正によって18年度はすでにマイナス3・16%の診療報酬の引き下げがおこなわれ、特に7月からは療養病床における報酬の大幅な引き下げと、診察料、X線検査、リハビリ、手術などでも引き下げとなり、約3割の減収になるのではと予想されています。

石川院長 大学教授に昇進

町立津南病院院長の石川眞一郎先生は、この度東京慈恵会医科大学の教授に昇進されました。

平成3年に初めて病院長として就任以来、一時大学の方に戻りましたが、平成15年4月より再び院長として活躍をされています。専門は循環器で生活習慣病などの予防医学に取り組んでおられます。趣味の古典落語をはじめ、毎日プールで泳ぎ、健康づくりにはげむてきな先生です。



毎日、多勢の患者の診療にあたっている石川院長。

ます。

この6月から7月にかけて（骨太の方針2006）の策定に向け、知事や県議会、市町村長の団体と共同して（地方6団体）小泉首相に強く申し入れを行いました。当面交付税の減額は先送りされましたが、引き続き制度の改善を求めて行かなければなりません。

6月下旬、郵政公社は宮野原郵便局など全国過疎地1千箇所あまりの郵便局の集配業務を廃止し、窓口業務だけにすると発表しました。

政府は昨年、民営化の国会審議のなかで、「万が一にも国民の利便に支障を生じさせない」としていたのに、今回の発表は唐突であり、地域振興の上からも大きな影響が生じかねません。県町村議長会では7月の総会で計画の撤回と過疎地の郵便局の統廃合を行わないよう決議し、厳重な申し入れを行いました。

最後に自治体病院の医師の確保についてであります。とりわけ平成16年、医師の新臨床研修制度がスタートしてから、都市部に医師が集中して、地方の自治体病院の医師が不足となり、地域の医療を確保することが非常に厳しい事態

となっております。

この7月、全国町村議長会の代表として、文部科学省・厚生労働省の幹部職員、与党の国会議員並びに自治体病院協議会との会議に出席する機会があり、津南病院の実態について報告するとともに医師確保についても、過疎地域病院へ国の特段の配慮を要請してまいりました。今後、新潟大学医学部の地元学生枠の拡大や、自治体病院勤務の医師を養成する自治医科大学の定員増、女性医師の子育て等に配慮した勤務条件の改善が検討されるものと思っております。

以上、津南町に影響する事柄について、活動の一端を報告いたしました。津南町をより良くするため、同僚議員、町長、執行部職員と協力してまいりたいと思っておりますので、町民の皆様からも叱咤激励を頂ければ幸いです。



「季節の色」

赤沢 涌井 聡美 さん

山の残雪と新緑と桜。そんな風景の色から始まり、季節ごとに色を変えていく。何一つ変わりはしない生活のなかで、ホッと心安らぐ時。毎日のように車で走る長坂。さまざまな色の沢山の花たちが迎えてくれる。早朝から草刈りや花の世話をしてくださる皆様……本当にありがとうございます。時間のあるときはゆっくり車を走らせ風景を楽しんでおります。季節が流れ、秋風の吹く頃は何ともいえないほどの、深爪をしたような痛みと切なさ。「またあの長く冷たい冬が来る……」だけど、確実に春は来る。長く長く続く闇のトンネル

でも、その先には一筋の灯りが見えるように。津南の季節の色……楽しみませんか？風の香りと沢山の色に出会うことができますよ。そして、坂を登り切ったところに柵がある。そこにたたずんでいる人を見かける。何を考えているんだろう。家族のこと？恋人のこと？届かぬ思いはきっと「龍神様」が大きな背中に願いを乗せて、必ず届けてくださいますよ。長坂の冬は厳しいけれど、津南でお気に入りの場所。

「子供たちを守りたい」

上段 小林 ^{タカシ} 節 さん



交通事故が多発している最近。どうして事故がこんなにも多く起きるのでしょうか。飲酒運転や、スピード違反などさまざまな原因がたくさんあるのでしょうか。

私は5歳と1歳の男の子がいます。自宅は国道沿いにあるため、安心して外に出して遊ばせることが容易ではありません。周りの状況を気にせず無我夢中で走り回る息子たちですから、近くの広い場所で限られた遊びしかできないのです。津南町にも子供たちが安全で安心して思い切り外で遊

べるような施設があればいいなと思っています。

津南小学校の通学道路で登校風景を見ていたときのこと。交差点で横断できなくキョロキョロしている1年生くらいの子供がいました。すると上級生が手をつないで渡り、全員が渡り終わると頭を下げて「ありがとうございました」とお礼。また、つまずいて転んだ子がいれば「大丈夫？」などと優しく声をかける上級生。上級生が下級生を見守る光景を見ると、小さい子供たちを守りたい気持ちが伝わり感動しました。



長い梅雨もようやく明け、首を長くして太陽を待っていたのは私だけでしょうか。
一昨年来のいくつもの災害は、津南農業に、商店街に大打撃を与えてしまいました。今年の集中豪雨で、また信濃川が氾濫、畑作物の被害とうんざりの梅雨でありました。
さて、第3回大地の芸術祭が7月23日から始まりました。作品も多くなり、見所がたくさんあります。ひまわり畑と大地の芸術祭の作品に、大勢の観光客の来町を期待しています。今後の天候に望みを託し、実り多い秋を願っています。（真）

編集後記